

みかん

園地の メンテナンスを 行いましょう

果樹林産センター
杉本 悠太郎



2月になり出荷も後半を迎えます。最後まで貯蔵管理を徹底するとともに、今月は土づくりや剪定・間伐・改植準備など園地のメンテナンスが主な管理となります。

《貯蔵管理》

2月は、出荷が進み入庫量が減ることで貯蔵庫内の温度5〜8℃はともかく、湿度85%に近づけることが難しくなります。新聞紙やタイベック、水を張ったバケツなどにより湿度の確保に努めましょう。また、腐敗果の除去や貯蔵箱の差し替えを行い、貯蔵管理を徹底してください。

《樹勢回復》

1月号にも載せましたが、平成30年産は表年に加え、夏季の高温乾燥、台風の襲来などで

樹に負担がかかりました。寒害による冬季の落葉は、着花量を減少させます。寒害対策として、寒冷紗やコモなどで被覆を行い、落葉防止に努めてください。また、引き続きちっ素系液肥の葉面散布や土壌の乾燥防止として敷きワラや暖かい日にかん水を行ってください。

《土づくり》

土づくりの目的は健全な根（細根）を増やすことで、施肥の吸収効率を高めます。まずは園地ごとに土壌分析を行い、園地の状況を把握しましょう。

有機物を投入することで土壌がやわらかくなり、通気性・保水性が向上し、新根が発生しやすい環境になります。また、ミカン栽培に適した土壌pHは5.5〜6.5とされています。土壌が酸性化してしまうと、根の発根や微生物

の活動が抑えられてしまいますので土壌改良を行いましょう。

- ・キノックス 2000kg/10a
- ・苦土セルカ2号 160kg/10a

《間伐》

2月になると表年が予想される樹や園は剪定に取りかかりますが、剪定に入る前に樹と樹が密植になっていないか、樹が古く生産性が低いかなど一度園地を確認しましょう。密植園や老木園は、病害虫の発生や隔年結果の助長など高品質果実の安定生産は難しくなります。樹と樹が混み合っている場合や樹齢25〜30年以上の樹は、思い切って間伐を行いましょう。3月に入れば注文した苗木の植え付け時期にもなるため、植え穴などの準備も行ってください。